





平成27年度 第18回 長崎県国際理解教育セミナー 2月20日(土)

在外教育施設での教育実践

<p>北京日本人学校における教育実践 佐々町立佐々中学校 寺田 克彦 先生</p>		<p>中学校国語教師でありながら、小学校5年生担任として赴任された経験をもとに4年間の実践報告がなされました。学校危機管理としての脱北者対策の避難訓練や、反日デモ、大気汚染の影響など、赴任地ならではの苦労を交えながらの報告でした。多くの著名人が訪れた話も興味深いものでした。</p>
<p>モスクワ日本人学校での教育実践 南島原市立飯野小学校 志岐 幸美 先生</p>		<p>冬にはマイナス21°にもなる日が多いというモスクワ日本人学校での実践報告がなされました。特色ある教育として、スケート学習や縦割り班での競技大会(モスリンピック)、また、一つの校舎をイタリア、フィンランド、スウェーデン、日本の4校で使用している同校ならではの交流会の様子などの報告がなされました。</p>
<p>香港日本人学校での教育実践 佐世保市立清水中学校 森田 学 先生</p>		<p>香港日本人学校へ赴任された森田先生の教育実践報告でした。あいさつを交わすことで、この人は一体何語を話すのか?(北京語? 広東語? ...)を知ることができるというエピソードが印象的でした。現地に行って初めて気づいたことがたくさんあり、今後に生かしていきたいとまとめられていました。</p>

国際理解教育講演会

<p>「世界に羽ばたき共生できる 心豊かな子どもの育成」 長崎外国語大学 総括副部長 溝田 勉 先生</p>		<p>元国連・ユニセフ駐日代表/文部省大臣官房という肩書をおもちになる溝田先生の、楽しく、機知に富んだ話をお聞きすることができました。現地での体験をどう生かすか?というテーマに対して、体験したことを話せるという強みを生かして、グローバルな人材を育てていく上で、子どもたちに生きてはたらく材料を提供していくことが大切であるという示唆を与えていただきました。また、国際理解と協力の進め方として、人間対人間のふれあいが大切であり、そうした人間性をいかに培っていくかが課題であると述べられました。</p>
---	---	--